

令和 7 年度 事業計画書

社会福祉法人 援助会



養護老人ホーム 聖ヨゼフの園

特別養護老人ホーム 聖ヨゼフの園

短期入所生活介護事業所 聖ヨゼフの園

居宅介護支援事業所 聖ヨゼフの園

聖ヨゼフの園 ヘルパーステーション

聖ヨゼフの園 生活支援センター

聖ヨゼフの園 介護職員初任者研修事業

グループホーム 聖ヨゼフの園

デイサービス 聖ヨゼフの園

目 次

経営理念・基本方針・理念指針・・・・・・・・・・	2
社会福祉法人援助会組織図・・・・・・・・・・	3
事業計画・・・・・・・・・・	4
法人・特養・短期・・・・・・・・・・	7
養護老人ホーム・・・・・・・・・・	10
居宅介護支援事業所・・・・・・・・・・	12
訪問介護事業所・・・・・・・・・・	14
グループホーム事業所・・・・・・・・・・	15
デイサービス事業所・・・・・・・・・・	17



経営理念

地域と連携し社会に貢献するために、『人に尽くす』伝統の精神を活かし、効果的事業を行う

基本方針

- ⊗ 全ての人は貴く、愛される存在であることを自覚する
- ⊗ 全ての人と心の触れ合いを大切にし、癒し癒される喜びの人間関係を追求する
- ⊗ 利用される方々が喜びの人生を過ごすことができるよう、最善を尽くす

理念指針

- ・ 地域と連携し、社会に貢献する。

この事業は地域社会に支えられている。地域社会、地域の方々の存在があって初めて成り立つ。地域と連携し、社会に貢献する事業基盤なくして施設は存在しない。このコンセプトは、社会福祉事業が成立する根幹であり、命である。

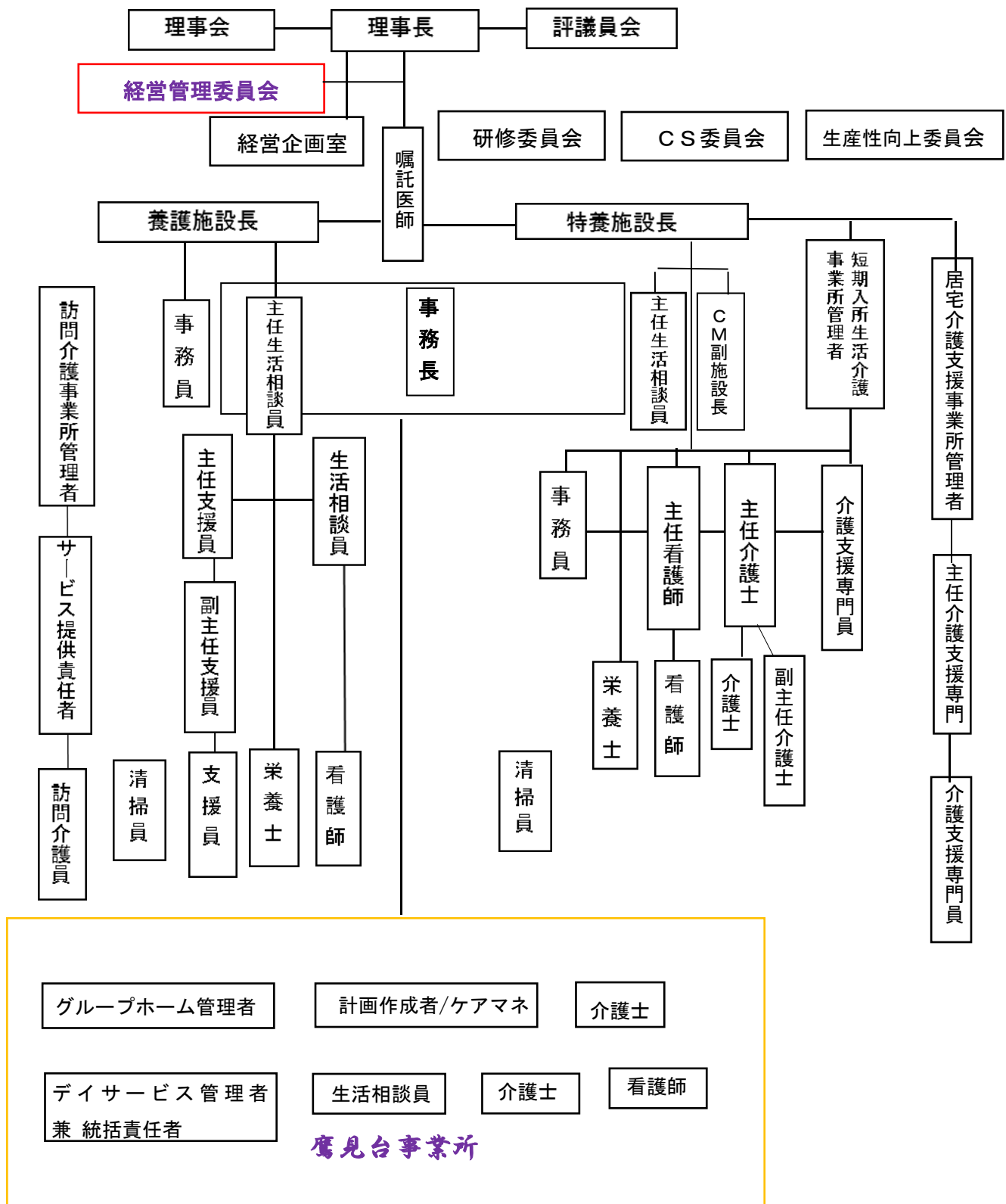
- ・ 『神と人に尽くす』精神を全うする。

利用する方々の人生に最善を尽くして寄り添うことはキリスト教の精神であり、その伝統が聖ヨゼフの園を支えている。『神と人に尽くす』ことを我々のミッションとして、全力で“心”を尽くした経営を行う。

- ・ 伝統を活かし、効果的事業を行う。

聖ヨゼフの園の誇らしい伝統を事業の強みとして活かしながら、それでも事業と人が時の変化に対応しなければ、その伝統を継続することはできない。効果的事業の実践は、時代を生き残り社会福祉に尽くすために果たさなければならない目標であり、新たな伝統を築く路である。

社会福祉法人援助会 老人ホーム聖ヨゼフの園 組織図 R7年度



事業計画 (令和7年度)

1. 事業の柱

経営目標	ビジョン	R7年度目標
収益改善	事業拡張、生産性の高い間接業務で安定化を図る 経営的課題	① 各事業所の収益強化 ② 経費削減 ③ 業務効率化
生産性向上	『もの』の効果的活用	① ロボット・ICT対応 ② 生産性向上委員会活動と業務改善&効率化
伝統の理解	経営理念の理解とプロ目標の設定 職員の課題	① 経営理念の意識具現化 ② CS委員会活動で伝統の精神喚起
プロの仕事	経営も職員もこの仕事のプロ	① 他職種連携の組織力 ② 勉強を欠かさない向上心 ③ 変化対応の柔軟性

令和6年6月、北九州市は「介護の未来大作戦」を事業として発表し、これから先の福祉法人が変化をしていくための道標を示した。と同時に、老人福祉の団体ではこれを受け入れていくセクションがないため、「DX推進ワーキングチーム」を立ち上げ、市との連携を図りながら加盟法人の変化対応をサポートする体制をスタートさせた。

社会福祉法人事業は、困難が想定される制度存続や人材不足対応に備えた柔軟性を培っていかなければならない。援助会の20年前の姿は「経営」ではなく「運営」を他法人と同様にしていたが、時の変化に対応するために事業を経営に舵を切った時から、正に変化に対応しながら正しい社会福祉法人の事業拡張を行ってきた。

前年度の介護事業者倒産件数は過去で一番多く、その大半が居宅事業系であるが、経営資源の『人』と『もの』に力点しなければ制度や人材に不安定要素があるこの事業が生き残っていくことは、施設系を含め事業規模が小さな法人の集まりであるだけに、厳しい。その厳しさを排除していくのは、冒頭の行政の動きとマッチングすることや、経営者のみではなく職員を含めて時代の要請に対応する術を身に着けることである。

現状は、『人』と『もの』にまつわる変化は順調に推移しているが、100年の老舗法人をつくるために必ず経なければならない路、年商8億円を目指す事業経営が援助会の当面の課題であり、令和7年度より事業拡張の取組を行う。

令和7年1月17日
社会福祉法人 援助会
理事長 本戸邦夫

教育・研修

園内研修

目 標	研 修 内 容
新任職員 園内研修では特に新任の研修に力を注ぎ、自立に向けて全園あげて養成に取り組む。	【介護士・支援員】2ヶ月間、新任1人に複数の担当介護士が理念に基づいた指導にあたる。(介護技術、バイタルチェック、観察方法、体位変換・安楽な姿勢、日誌書き方、報告の仕方、介護職と他部署間の連絡方法、報告・連絡・相談の方法、提出物の提出方法、記録物の捺印方法等々) 評価反省を実施し養成にあたる。 新任は研修に参加 【看護師】新任研修に参加。看護全般、他部署間との報告・連絡・相談、提出物の提出方法。 【事務所】事務全般、受付業務全般、接遇、他部署間の報告・連絡・相談。 【栄養士】栄養管理全般、他部署間との報告・連絡・相談、提出物の提出方法。
全職員 ① 毎年同じことを繰り返し研修する事によって、初心に返り新たな発見、疑問等に気づく。 ② 勤務年数に応じた知識の構築を目指す。 ③ 講師を招く研修 ④ 講師に学ぶ研修 人材育成教育	・ 理念、年度事業計画の説明会、認知症、機能訓練 ・ リスク・身体拘束・虐待、体位変換、感染症、口腔ケア、心肺蘇生日誌の書き方と報告の仕方、「看取り」ケア、研修報告会、介護保険の動向について、防災訓練（夜間想定・昼間想定）…年に2回、外部講師防災講習 ・ 中堅職員の意識化を図る。 ・ リハ研修、認知症研修 ・ 外部講師/大坪研修：年2回 ※一般 ※リーダー ※管理職 ・ 外部講師の研修を受けながら、成長する機会を得る取り組み ・ 訪問介護個別研修 ・ 職務分掌役割研修 ・ 次世代リーダー研修 ・ 個別能力向上研修 ※ 優れた組織事業は、全ての職員のより一層の職業能力向上が必須。特に、リーダー職員の経営目線が無ければ良質の事業は衰退、そのあり方が問われている。

令和7年度 年間スケジュール

【行事】

日程	特養	養護
お花見	未定	未定
創立記念の日	4月10日（木）予定	
運動会	未定	未定
食事会	未定	未定
理事会	3月、5月、以外は不定期に開催	
家族親睦会・交流会	未定	未定
地域の盆踊り	未定	
わっしょい	未定	
納涼大会	未定	未定
園遊会	未定	
外食会	未定	未定
職員忘年会	12月2日（火）千草ホテル	
クリスマス会	未定	未定
餅つき	1月上旬	

※行事については、感染症の状況などを鑑み、開催時期・有無を決定する。

【防災・消防訓練】

5月	感染症対応訓練（COVID19）
10月	消防訓練（地震・火災）
翌年3月	消防訓練（火災）

法人・特養・短期 事業計画

社会福祉法人 援助会
理事長・特養施設長 木戸 邦夫

1. 令和7年度以降の法人の方向性

冒頭、事業の柱で述べた市が提唱する『未来の介護大作戦』は、介護保険事業に造詣の深い北九州市長が、介護事業は変化をして、しっかり地域の介護ニーズで応えなければならないと警鐘しているわけであるが、この業界の特徴として変化に疎い傾向は介護保険制度が発足して20年を超えても、いまだに依存体質は色濃い。

法人援助会が辿ってきた平成18年度からの①『変革期』②『拡張期』③『定着期』④『発展期』において、①では赤字体質の脱却、②では事業拡張に鷹見台事業創設、③では拡張安定に至る経過、④では今後の発展に対応する経営ビジョンの確立と拡張PDCA実現、こうした流れを経ながら老舗の優良法人としての位置づけを確立する。参照：第1号報告/法人援助会の決算と事業取組みの変化

④ 発展に対応する経営ビジョンの確立と拡張PDCA実現

そこで、今後の事業発展については以下のようにビジョンを掲げ、事業が安定していくこと、同時に職員が働きやすい職場環境を今以上に構築していくために必要なことのポイントは、

① 事業規模による安定の布石

事業収支：売上高8億円（現状よりも2億円増加） 収支3,500万円（〃2,000万円増加）・・・小規模、地域密着事業の展開

② 生産年齢人口減少対応の人材確保、育成

- ・生産性向上の進化・・・DX推進の加速、テクノロジー教育 etc.
- ・外国人材の登用・・・現在は2名、増加傾向に舵取りの必要性有無の検討
- ・人材育成教育・・・職業能力の向上による組織力強化、地域密着のブランド発展
- ・外部連携強化・・・事業を支えるステークホルダーとの良好な連携強化

令和7年4月から事業拡張に向けた経営企画室の再開で人材登用を図りながら、特にこの5年間で老舗として安定経営ができる企業体質を構築していく。

そこで次のような観点で法人事業を進めていく。

- ① 収益確保の安定化、そのための経営企画を司る経営管理委員会の本格活動
- ② 業務、福利厚生での状況に応じた活動再開、特に行事・レクリエーション等の実施
- ③ 人材育成教育の集合実施再開、同時に職員の外部研修参加奨励
- ④ 生産性向上の取組み、そのための現場業務の改善活動
- ⑤ ④に関連して、ほむさぼ向上委員会の活性化とロボット・ICT利用の前進・再考
- ⑥ CS委員会の活性化
- ⑦ 新型コロナウイルス感染症対策会議の状況に応じた先手管理・情報発信
- ⑧ 部署、職員間の連携強化
- ⑨ ボランティア活動の活性化
- ⑩ 協会団体活動、外部関係先との連携

- ⑪ 令和7年度からの事業拡張に向けた準備
- ⑫ 経営層の入れ替わりによる体制刷新と充実

要は、コロナ環境で封じられていた本来の事業・職員活動を、状況を見ながらもおおよそ再開していく年であること。また、第9期介護保険事業計画に沿った事業と現場の充実を図っていくこと、中期経営計画を策定しながら法人の将来性を再考することになる。人材と介護費用の窮屈な業界環境に負けずに、進化を続けなければならない。

「経営の安定化を強化し、職員の働きやすい職場環境も進化」

2. 特養・短期事業の方向性

全国的には特養の6割が経営赤字の時代。しっかりした経営管理ができていても、質の良さによって収支に余裕が持てる時代ではなくなってきた。しかしながら、法人の伝統の良さや对外活動の活性化によるブランドと知名度向上の意欲や職員の質と外部活動の豊かさによって入所待機者は多く、事業安定は懸念ない。

法人コメントでも記した、ご家族を含めた業務活動をどう再開していくのか。活動の少なさは利用者の楽しみと豊かな生活感や職員の生き甲斐に繋がる仕草を抑制することになり、経済や社会環境と同調することではなく、我々の本来の職業観や使命を果たす活動年度にしなければならない。

また、特養・短期事業の課題は入所者の入所開始から健康面での状態懸念頻度が増し、したがって退所時期が早まり対応の困難さは従前に比べ重い。

老人福祉施設の課題は、こうした入所者の重度化や職員の労働負荷に対する手当を経営の重要課題として取り組んでいくこと。特に、施設系また居宅系の特徴を勘案しながら、「もの」と「仕組み」の充実を図らなければならない。

- ① ロボット・ICTの現場、管理部門での進化
- ② 現場の仕組みの効率化、これは現場リーダーと職員の対応で実現すること
- ③ 外国人実習生の成長と、6月からの夜勤勤務開始
- ④ 前述の、行事や職員研修等での集合実施

その他、決算関係予算等の役員会提出資料を参照ください。

3. 令和7年度 事業収支予算

前期は、特養入所率99.6%、ショート95.9%で過去最高を記録。今年度も同様は中々容易ではなく、収入減少380万円、資金収支減少400万円、収支+700万円で計画する。

(万円)

	特 養	ショーステイ	計
収 入	23,130	1,460	24,400
人件費	15,390	880	16,300
事業費	4,010	290	4,200
事務費	2,590	190	2,800
その他	440	0	400
収支差	700	100	800

養護老人ホーム 事業計画

養護老人ホーム 聖ヨゼフの園

施設長 福山 妙子

1. 令和7年度 予算

(万円)

	令和 6 年度収支 (見込み)	令和 7 年度予算	前期比
収 入	13, 325	13, 325	0
人件費	6, 720	6, 820	100
事業費	3, 477	3, 452	-25
事務費	2, 671	2, 673	2
その他	380	380	0
収支差	77	0	-77

【 收入 】

- ・ 令和 6 年度（令和 6 年 2 月末現在）
 - * 平均在籍者数 59.9 名 * 平均入居稼働率 96.3 %
 - * 月平均収入 1,108 万円 * 一人平均収入 18.5 万円 / 月
- ・ 来年度は入居稼働率 97%を目指す、措置費収入予算としては支出とのバランスを考慮し、13.325 万円を目標とする。

【 支出 】

- ・ 人件費 . . . 業務効率の向上に努め、離職者ゼロを目標に職員の定着を目指す。支援員業務については、障がい者枠での雇用促進も検討中。今後、支援員の補助的役割の位置づけで期待している。
- ・ 事業費 . . . 給食費など物価高騰の影響による支出増。
- ・ 事務費 . . . 防犯カメラの増設、通信機器のリース替え等あり。職員の定着により手数料の支出は抑えたい。
- ・ その他 . . . 令和５年度末に居室建具等取り換え工事費借入の返済が令和６年度から開始。令和１２年までに完済予定。

2. 今年度の取組み

(1) 安定した収入と必要経費の調整

- ① 利用者の入退所のタイミングを図り、月初の満床を維持。措置前入所の受け入れも継続し、急な退所の場合にも対応できるよう調整する。又、利用者の健康管理に配慮し、入院者の減少を目指すことで稼働率97%を目標とする。
- ② 養護措置者の受け入れや在籍者の重度化対応については、支援員体制との現状に合わせ、入退所を調整していく。
※ 緊急保護受け入れの要請があった場合は可能な範囲内で対応する。また、地域包括支援センターや役所と連携することで、今後も信頼関係を継続できるよう尽力する。
- ③ 施設の老朽化による営繕面は、修理のタイミングを計りながら必要に応じて実施。
- ④ 必要経費については、一人一人が業務改善や創意工夫の意識を持ち、有効な使途を目指す。

(2) 職員体制の構築

- ① 業務効率の向上を図り、チーム力を強化する。
 - ・ 業務内容を見直し、効率よく業務を熟すことで、仕事に対するモチベーションを持続する。
 - ・ 職員間、部署間の連携が円滑に実施できるようお互いの立場を理解し、情報共有に努める。
- ② 人材育成・・・自ら考えて行動できる人づくり
 - ・ 経験年数や専門職に適応した研修参加を奨励し、個々のスキルアップを図る。
 - ・ 個人目標を活かして一人一人の能力を延ばし、組織の一員としても成長できるよう支援する。
 - ・ 仕事に対する意欲を持ち、自主的に行動できる職場作りを目指す。

(3) 地域に必要とされる施設を目指す

- ① 地域に根差した施設としての役割を果たす。
 - ・ 認知症等身元不明者一時保護事業の受諾、まちかど介護相談室の設置、大学生福祉体や介護実習生の受け入れ、福祉避難所の登録等について、継続して対応する。
- ② 地域で開催される行事や会議に参加し、地域と交流する
 - ・ 年長者の作品展（ココロツナグ展）、まち美化の清掃活動、校区の夏祭り、市民センターまつりなどの行事に利用者と共に参加する。
 - ・ 地域での貢献活動の機会を活かし、積極的に取り組む。（出前授業の参加、研修会など）

3. ビジョン

- * 自ら考えて行動し、魅力ある職場作りを目指す。
 - ・ 自らの行動に責任を持ち、目標の達成に努める。
 - ・ 職員間で互いを尊重し、相手の立場を考えて行動する。
- * 養護の役割を理解し、利用者様の生活の質の向上に取り組む。
 - ・ 利用者様が安心した生活を送ることができるよう細やかな目線で対応する。
 - ・ 利用者様の生活状況を把握し、温かな関りを心掛ける。

居宅介護支援 事業計画

居宅介護支援事業所 聖ヨゼフの園
管理者 山下 敦

1. 居宅介護支援事業所の体制整備と強化

A) 円滑な業務遂行・業務の効率化を図る

- ①事業所内で随時報告・連絡・相談を行うことにより、各ケアマネジャーがどの利用者の対応もできるようにする。
- ②研修や通達事項・他事業所等から情報収集し、制度に即した業務を行う。
- ③ICT（ノートパソコン、リモートソフト）を活用し、事務所外からも書類作業ができるように環境を整備する。

B) 居宅事業所としての運営強化

- ①新規利用者獲得にむけての動きを継続し、安定的な収益の確保につなげる。
- ②特定事業所加算Ⅱを算定し、事業所の質の向上に努める。
- ③近隣病院・事業所・地域包括との良好な関係を維持し利用者紹介につなげる。
- ④リモートワーク導入することで、多様な働き方・働きやすさにつなげ、職員の定着を図る。

C) 事業所拡大路線へ向けての取り組み

- ①総利用者数を増やし、新しくケアマネジャーを雇用する基盤をつくる。

D) ケアマネジャーの質の向上

- ① 他法人との研修会の開催、外部研修への参加と事業所へのアウトプットに取り組み、各々がケアマネジャーとしての質を高めていく。

2. 事業の今期予算と経費削減

A) 令和7年度予算

① 予算

(単位：千円)

	R6 年度収支	R7 年度予算	前年度比
年間収入	42,925	43,200	275
支出（人件費）	29,320	29,400	80
支出（事務費等）	4,505	4,520	15
資金収支	9,100	9,280	180

※支出（事務費等）には新事務所改修返済金 90 万も含む

B) 経費削減の取り組み

- ① カラープリントの削減
- ② 事務所不在時の空調、電気関係の節電徹底、水道の節水など、水道光熱費の削減

3. 地域に馴染んだ事業所作りの推進

- ① 居宅利用者以外の介護相談にも応じ、地域関係機関とのネットワークを広げ、地域における聖ヨゼフの園の浸透化に努める。
- ② 青山、萩原地区の行事（盆踊り、市民センター祭りなど）に顔を出し、地域に根差した事業所になる。
- ③ 地域の方々への介護や施設についての情報発信、相談援助も積極的に行っていく。（まちかど介護相談室）
- ④ 社会福祉協議会の連絡調整会議へ出席し、地域の相談窓口になる。
- ⑤ 介護のしごと出前授業へ参加し、介護の仕事の普及や後進の育成に努める。
- ⑥ 夜間・休日・緊急時にも携帯電話等による速やかな対応を行う。

4. 居宅介護支援専門員としての役割を果たす

- ① 介護保険改正の把握と新しい知識の習得に努める。
- ② 常に援助チームの中心としての役割を自覚し、b、n業務にあたる。
- ③ 利用者のニーズを的確に捉え、自立した在宅生活を目指した対人援助を心掛ける。
- ④ 他事業所と連携し研修・勉強会などを行うことで、地域のケアマネジャーの質の向上に努める。

5. 法人内各部署との連携、地域関係機関との連携を強化する

- ① 養護老人ホーム・特別養護老人ホーム・訪問介護・グループホーム・デイサービス・各部署との連携に努める。
- ② 行政・地域包括・近隣医療機関や他事業所との連携を図る。

6. 今後のビジョン

順調に売り上げも伸びており、居宅支援事業所として法人への貢献度も高くなっている。
しかし、今の職員数ではこれ以上の増収は難しい状況である。ケアマネジャーの1名増員と、その後の展開として第2事業所の検討が必要になってきている。

・令和7年度

① ケアマネジャーの1名増員とサテライト事業所設立準備

※事務所改修費：1000万

年間90万の返済を行い、R9年度には返済終了予定

訪問介護・障害 事業計画

聖ヨゼフの園 ヘルパーステーション

管理者 中尾 智子

1. 事業所の体制整備と強化

A) 事業所としての運営強化

- ①営業活動を実施し、毎月新規利用者の獲得をする
- ②新規相談時には受け入れを積極的に実施し、丁寧な対応を心がける
- ③縦と横のつながりを大事にし、交流や情報交換ができるよう関係作りを構築する

B) 円滑な業務の遂行と業務の効率化を図る

- ①管理者とサービス提供責任者の会議を月に1回実施する
- ②自身の仕事の整理をし、優先順位をつけながら業務をおこなう

C) 法人内の部署としての在り方を意識する

- ①外部活動中は特に聖ヨゼフの園の職員として意識を持って活動をする。
- ②各部署との連携を強化し互いに認め合う。
- ③研修に参加するなどし、知識や経験を増やし専門職としての立場を確立させる。

2. 事業の今季予算と経費削減

A) 令和7年度 予算

(万円)

	令和7年度
介護事業収入	4,750
障害・支援事業収	250
収入合計	5,000
人件費	4,300
事業費	150
事務費	380
支出合計	4,830
収支差	+170

このために、常時120名の契約者の維持が必要。3事業で利益を追求した業務をおこなう。

B) 経費削減の取り組み

- ①ケアパレット導入に伴いペーパーレスの取り組みを実施
- ②無駄な印刷物を省く

3. 地域と他事業所との連携

- ①園内外の清掃活動や出前授業など法人で行う地域貢献活動に参加する
- ②社会資源として地域に根差した事業所となる

4. 今後のビジョン

サービス提供責任者3名（管理者兼務1名）体勢で事業をしていくことで、利用者120名のケアをおこなっていく。登録ヘルパーの人数を増やし、無駄のないシフト作りをしていく必要がある。また、利用者様を新規で増やしていく事も必要ではあるが、ヘルパーの人数維持の為に、利用人数よりもケア数を増やしていく事で事業に貢献していきたい。

グループホーム 事業計画

グループホーム 聖ヨゼフの園
管理者 門三野 亨

1. グループホームのあり方

グループホームの定義とは「共同生活住居において、家庭的な環境と地域住民との交流のもとで入浴、排泄、食事等の介護、その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行う事により、利用者様がその有する能力に応じ自立した日常生活を営む事が出来るようにするものでなければならない」と定められている。

そこで援助会の経営理念と基本方針に則した事業・業務のあり方を基本とし、利用者様中心の家庭的なグループホーム作りを目指し、最期まで利用者様の意思を尊重し、また意思が引き出せるように努める。また、可能な限り自立した生活を送る事が出来るように自立支援を促し、利用者様自身ができることを活かした支援を行っていく。

2. 事業・業務安定化の取り組み

- ①組織作りを行い、職員育成をする。
- ②各種マニュアルを見直し。
- ③利用者様・ご家族の意向を踏まえた余暇活動の立案・実施。
 - * 施設内活動、町内行事参加、その他日常のレクリエーション 等。
- ④主治医や訪問看護ステーションと連携した利用者様の健康管理や体調変化への対応。
- ⑤リスク管理を徹底し事故をなくす。
- ⑥待機者確保と退所への迅速対応。
- ⑦職員教育を行い、ケアの質の向上と職員の定着を図る。
- ⑧外部研修や自主勉強会等の機会を作り、情報の取得、知識や技術向上の場を作る。
- ⑨本部との連携。
 - * 援助会の伝統と理念を鷹見台においても広め、本部と同じ精神のもとで事業を行う。
 - * 経営・業務関連等、本部と常に情報共有。
 - * 研修や行事などでの本部との関わりを密にする。

3. グループホーム年間収支

	令和7年度
年 間 収 入 合 計	* 94,900,000 円
(介護報酬収入)	(68,000,000)
(利用者収入)	(26,900,000)
年 間 支 出 合 計	* 91,035,000
(人件費)	(63,890,000)
(事業費)	(13,010,000)
(事務費)	(5,805,000)
(その他)	(8,330,000)
収入差	+3,865,000 円

年間入所率98%を目標とする。

※令和6年度は退所者がいたが、目標である入所率98%を達成できる見込みである。

入所率98%を達成するためには、年間空床131日以内にしなければならない。

その為に、

- * 利用者様の健康管理とリスク管理を徹底し、入院を減らす。
- * 入院者が出た際は病院やご家族にアプローチをして短期間での入院とする。
- * 退所から新入所までの期間を短くする。その為に待機者を常時10名以上確保する。

上記3点を徹底する。

また、物品等の計画的購入で、無駄を省き経費削減する。

上記の内容を実行し、収支+3,865,000を目指す。

4. 利用者様・ご家族・地域住民・外部との信頼関係

- ①利用者様・ご家族と積極的にコミュニケーションを取り、意見には素早く対応する。
- ②ご家族へは密に情報提供を行い、信頼関係の構築に努める。
- ③地域住民の方々の介護に関する相談窓口としての役目を果たす。
- ④鷹見台地域協定書を活かしていく。
- ⑤町内会に加入し、地域の活動や行事等に職員全員が積極的に参加する。

5. 情報開示と交流による親しみやすいグループホームづくり

- ①運営推進会議を定期的（2ヶ月に1回）行い、情報を開示し意見交換の場を設ける。
- ②地域交流センターを常時開放する。
- ③他事業所や行政・地域福祉関係者等と交流し、相談・援助・信頼関係を築くなかで事業所の地位を確立する。

デイサービス 事業計画

デイサービス 聖ヨゼフの園
管理者 逆瀬川 陽祐

1. デイサービスの主たる取り組み

【ビジョン】

【 北九州でNO. 1の認知症対応型デイサービスになる！ 】

- スタッフの質の向上（認知症ケアの専門性及び主体性の向上）
- 利用者様のニーズに合わせたサービスの提供
- 顧客との信頼関係の構築
- チームワークの向上

2. 収支について

令和 6 年度実績	利用料収入	40,200,000円	（食費込）
	支出	36,790,000円	
* 補正予算	実質差額計	+3,410,000円	
令和 7 年度目標	利用料収入	41,600,000円	（食費込）
	支出	37,600,000円	
	収支差額計	+4,000,000円	

※毎月稼働率90%を目指す

3. 人材育成

認知症ケアの基本的知識と技術の習得及び実践力、相談援助技術の向上を目指し、チームの総合力を強化する。研修、OJTにより指導を行い、定期的にフィードバックを行う。また、スキルの向上だけでなく、チームワーク力（協調力）の向上も目指していく。

4. 地域との交流

令和7年度から自治区会会長の任を外れる為、地域との繋がりを絶やさぬよう、清掃活動や行事へ積極的に参加し、地域との関わりを継続して持っていく。

5. 本部との関わり

法人の一体感、帰属意識を高める為、本部と合同の研修やイベントに積極的に参加し他部署との交流を深める。また、リーダーは日頃よりスタッフに対し、法人を基準とした指導を行っていく。

